

Ⅱ 修士学位に関する規程

1. 修士課程修了要件

修士課程正規課程に原則として2年以上在学し、授業科目を以下の区分によって32単位以上修得し、さらに研究指導を受けて修士論文の審査ならびに最終試験に合格した者は「修士（商学）」の学位が与えられる（なお、早期修了制度適用者については1年以上の在学で修了を認めることがある）。

科目群	科目区分	修了要件		備考
研究基礎科目群	統計基礎	2		必修科目
	統計関連科目	4		「統計基礎（2単位）」以外で、4単位の修得が必要 4単位を超えて修得した科目は自由科目として扱う
	研究法関連科目			
	論文作成・発表法関連科目			
	外国語文献研究科目			
専門科目群	コア科目（所属専修）	4	18	
	コア科目（他専修）			
	発展科目			
	外国語による専門科目			
演習科目		4	1年次より登録	
研究指導		合格	2年次以降に登録	
修士論文		合格	最終セメスターに登録	
修了要件		32		

2. 科目登録

修士課程の学生は、学科目配当に基づいて、各自の方針や学位取得の必要条件を考慮して履修計画を立てなければならない。

各学期のはじめに、指導教員による指導に従って、その学期に履修しようとする科目を選択し、指定された期間内に所定の方式に基づき登録手続きを完了すること。

なお、修士課程の学科目は、主にセメスター科目であり、春学期もしくは秋学期に開講する（一部クォーター科目や集中講義がある）。修了に必要な単位数については、必ず学生各自の責任において正しく把握し、履修計画を立てること。

※登録単位数

- 1学年（4月入学者は4月～翌年3月、9月入学者は9月～翌年8月）に登録できる科目単位数の上限は、学期16単位、年間22単位（演習含む）とする。
- 学部在籍中に修得した「大学院先取り履修科目」の単位認定分は、登録上限単位数に含まない。（科目等履修生についても、単位認定分は登録上限単位数に含まない）
- 登録科目の取消は、指導教員が承認した場合のみ、商学研究科設置科目に限り各学期6単位を上限として認める。

※修士論文の審査に合格しているが、修了に必要な単位を修得していない学生については、一部取扱いが異なるため商学研究科事務所に問合せること。

※登録する科目により成績発表時期が異なるため、修了に関わる学期に夏季／春季休業期間中に開講される科目や他箇所・他機関の科目を登録しないようにしてください。（当該科目によって修了可否が確定する場合、修了時期が後ろ倒しとなり、証明書等の発行が遅れるほか、学位授与式に出席できないこともあります。）

《 科目区分 》

研究基礎科目群	1 年次に履修が望ましい科目	1) 統計基礎	修士課程学生として必要な統計の知識を修得する事を目的として設置された科目。必修科目であり、2 単位を修了までに修得しなければならない。 ※博士後期課程進学後(2016年度以降入学者)、単位修得が学位申請論文の提出要件となる	4 単位を修了に必要な単位として認め、4 単位を超えて修得した単位は自由科目として扱う。
		2) 統計関連、研究法関連、論文作成・発表法関連 各科目	修士課程学生として必要な研究方法、調査方法、執筆方法、発表方法を学ぶための知識を提供する科目。	
		3) 外国語文献研究科目	外国語の文献を通じて専門分野の視野を広げ、修士課程学生として必要な知識を修得するための科目。	
		4) コア科目	所属する専修において必要となる基礎知識を身につける科目。 (1) 所属する専修のコア科目から、4 単位以上を修得しなければならない。 (2) 所属する専修のコア科目を 4 単位以上修得した場合でも、所属する専修のコア科目は修得可能。 (3) 所属しない他専修のコア科目についても、修得可能。 ※コア科目を A+ または A 評価で合格した場合、修士課程修了1年以内であれば、博士後期課程入学試験の専門科目において当該科目分の免除を受けることができる。	
専門科目群	基礎を元に履修	5) 発展科目	専修ごとに設置された専門科目。指導教員と相談の上、履修すること。	所属専修のコア科目 4 単位を含めて、「専門科目群」から 18 単位以上を修得しなければならない。 18 単位を超えて修得した単位は、自由科目としては扱わず、修了要件単位に含めることができる。
		6) 外国語による専門科目	授業の全てを外国語で実施する専門科目。	
		7) 他研究科提供科目・グローバルエデュケーションセンター提供科目・他機関提供科目		
(1) 他研究科提供科目・グローバルエデュケーションセンター提供科目・他機関提供科目の履修は、学期および年間登録の上限単位数内で行うこととする。				
(2) 他研究科提供科目は、修了に必要な単位として、専門科目群へ認定可能とする。				
(3) グローバルエデュケーションセンター提供科目のうち、大学院全学共通設置科目は以下の科目のみを修了に必要な単位として研究基礎科目群へ認定可能とし、それ以外の科目については自由科目として履修を認める。				
学術的文章の作成とその指導 1・2, 学術・研究公正概論(人文・社会科学系), 質的研究方法入門 1・2				
(4) グローバルエデュケーションセンター提供科目のうち、大学院生開放科目 (General Tutorial English 等) については、自由科目として履修を認める。				
(5) 日本語教育研究センター設置科目については、自由科目として履修を認める。				
(6) 留学センター等が提供する科目については、履修を認めない。				
(7) 学部設置科目については原則として履修を認めないが、商学部設置科目については指導教員の指示に基づき前提科目 (自由科目扱い) として履修することができる。				
(8) 科目の登録は事前に指導教員の許可を得た上で行うこと。				
(9) 他研究科提供科目および研究基礎科目群へ算入可能なグローバルエデュケーションセンター提供科目 (大学院全学共通設置科目) について、修得単位は原則として修了要件算入単位として扱うが、科目登録申請期間に自由科目への算入区分変更申請があった場合に限り、自由科目へ区分変更を行うことができる。				
8) 演習科目				
第一セメスターから自動登録される科目で、修了までに 4 単位以上修得しなければならない。原則として在学中は自動登録されるため各自での科目登録は不要。ただし、留学期間中は登録されない。修士課程では、演習科目の取消は認められない。なお、8 単位を超えて単位を修得した場合は、自由科目として扱う。				
9) 研究指導				
第三セメスター (2 年次) から、自動登録される。P (合格) /Q (不合格) で評価され、単位は設定されていない。				

<p>10) 修士論文</p> <p>修了見込となっている学生の最終セメスターに自動登録される。指定の期日までに修士論文の提出が必要となり、最終試験（口述試験）に合格することが修了要件の1つとなる。なお、単位は設定されていない。</p>
<p>11) 自由科目の取り扱い</p> <p>自由科目の単位は登録上限単位数には含まれず、修了要件に含まれない。成績証明書には記載されるが、GPA には含まれない。</p> <p>※自由科目への科目区分変更について（他箇所提供科目のみ）</p> <p>他研究科提供科目および研究基礎科目群への算入可能なグローバルエデュケーションセンター提供科目の科目区分について、自由科目への変更を希望する場合は、当該科目の科目登録期間中に履修科目申請書(商学研究科 web ページ参照)を提出し、変更の手続きを行うこと。ただし、商学研究科設置科目は、自由科目への科目区分変更が認められないので注意すること。</p>
<p>12) 前提科目について</p> <p>各専修が配当する科目の履修に先立って履修しておくべき科目。これを履修していない者は、指導教員により、商学部設置されている当該科目の履修を指示される場合がある。履修希望者は「前提科目登録願」を商学研究科事務所に提出すること（Web 科目登録は不要）。なお、前提科目は修了に必要な単位数に算入されない。成績証明書には記載されるが、GPA には含まれない。</p>
<p>13) 在学中に他大学・他機関で修得した科目の認定単位について</p> <p>在学中に海外の他大学院で修得した科目の認定単位は通算10単位を上限として、専門科目群の単位として認める（在学中に海外の他大学院で修得した科目の単位は、所定の手続および審査を経て、専門科目群に該当する内容のものに限り認定する。ただし、コア科目（所属専修）の修了要件には含めない）。</p> <p>大学院学生交流連合（早稲田大学・京都大学・慶應義塾大学・東京大学）の派遣学生となった者は、派遣先で修得した単位のうち、原則として講義科目に限り、10単位を超えない範囲で、修了に必要な単位として認定することができる。</p> <p>なお、上記の両方に該当する場合、認定可能な単位数の上限は10単位とする。</p>